

事務事業マネジメントシート（21年度実績と22年度計画）

22年度予算確定後 平成 22 年 3 月 26 日 作成
21年度決算把握後 平成 22 年 5 月 21 日 作成

事務事業名		井戸湧水復活再生公園管理事業						☐ マニフェスト 関連 ☐ 全庁横断 課題関連 ☐ 集中改革 プラン関連		
総合計画体系	政策	1	人々が安全に安心して暮らせるまちづくり				所属部	総務企画部	課長名	濱田 善也
	施策	6	計画的な土地利用の推進				所属課	企画財政課	担当者名	岩田 建一
	基本事業	16	快適な住環境の整備				所属班	政策企画班	(内線)	1244
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	成果優先度評価結果 12		
		1	2	1	11	-		コスト削減優先度評価結果 6		
終了、開始年度		☐ 21年度で終了 ☐ 22年度から開始		事業期間		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返(開始年度 H17 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)				

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	H11年度旧西合志町が井戸湧水復活再生事業(環境保全施設整備費補助金)として整備に取り組んだ緑地(2箇所:城区・江良区内)について、公園としての位置付けが難しく、企画財政課にて所管しており、整備の際、地元との協議により日常管理は地元区(江良区、城区)にて行い、規模の大きな改修や補修は市にて対応する形態で管理を行う事業である。現地は市有地であり、H18年度、長雨により江良地区の観音の泉水公園の一部と公園に隣接する民地の土手が崩壊したため、隣接民地を市で購入し、建設課の市道災害復旧事業として公園斜面として一体的な復旧を行った。また、城区の下の井川湧水公園では、H18年度に地元篤志者による空洞ブロック積みの用水路側整備が実施された。H20、21年度に管理の効率化を図るため公園管理に一元化する内部協議を行なったが、急傾斜地で危険な状態では公園としては扱えないとの判断から、都市公園及び都市計画課への移管は行っていない。H20年2月、江良区(観音の泉水公園)から、公園西側土手を補強するよう要望があり、災害の未然防止のため、H20年度で工法の検討や関係地権者との協議等をすめ、H21年度で補強を実施する旨回答した。さらに、城区の下の井川湧水公園の日常管理が届かず住民からの苦情があり、地元管理を徹底するための働きかけが求められている。
【業務の流れ】	通常の維持管理は、地元区(城区、江良区)で行うため、定期に現地の管理状況を確認し、大規模の改修、補修については、公共事業として市で対応する。状況に応じて関係区及び関係各課と連携し効率的に実施する。
【主な予算費目】	委託料の検討
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	・江良区から、公園西南側土手を補強して欲しいとの要望がある。⇒H21年6月補強整備完了 ・城区の下の井川公園の管理について、住民から、除草等の管理がなされず、景観が悪いのでもっと市が指導して管理を徹底してほしいとの意見があった。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段(主な活動) 21年度実績(21年度に行った主な活動)(DO)	22年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
・従来どおり通常の維持管理を地元区(城区、江良区)で行った。(※江良地区については、崖地の整備工事を実施したが、新規事業として江良地区湧水公園崖地整備事業としてマネジメントシートを作成し取り組んだ。) ・日常管理のあり方について地元区と協議を行った。 ・公園管理の所管について関係課協議(21.12.4)を行った。	・江良地区については、土手の補強工事も完了し、日常の地元管理のみとなり、定期的な管理状況の確認を行う。 ・城地区については、必要に応じ管理委託料を予算化し地元管理の徹底を進めるとともに、協働による公園管理のあり方を検討する。
④活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標	(単位)
⇒ア管理のために地元区や関係者と調整を行った回数	回
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	⑤対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位)
井戸湧水復活再生事業により整備した公園(2箇所)	ア 関係公園数 箇所
	⇒イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	⑥成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位)
適正に管理される。	ア 管理に対する苦情、要望等に対応できた割合 %
	⇒イ
*⑥成果指標設定の理由と平成22年度目標値設定の根拠	
管理に対する苦情、要望等に対応できた割合を指標にすることで、地元及び市で管理する「適正」さが測れると考えた。	

(2) 各指標・総事業費 の推移			単位	19年度 実績(決算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	21年度 実績(決算)	22年度 目標(当初予算)	23年度 予定	24年度 見込
④ 活動指標	ア	回		10	12	8	8	6	4	3
	イ									
⑤ 対象指標	ア	箇所		2	2	2	2	2	2	2
	イ									
⑥ 成果指標	ア	%		100	0	100	100	100	100	100
	イ									
投資 入 量	事業 内 訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円					37	37	37
	(A) 事業費計		千円	0	0	0	0	37	37	37
	(A)のうち指定経費		千円							
	(A)のうち時間外、特勤		千円							
	人件 費	正規職員従事人数	人	4	3	3	3	2	2	2
		延べ業務時間	時間	36	26	36	24	16	16	16
		(B)人件費計	千円	143	104	143	96	64	64	64
トータルコスト(A)+(B)		千円	143	104	143	96	101	101	101	

総トータルコスト
全体計画
～ 年度

(期間限定複数年度のみ記載)

谷志市

事務事業名	井戸湧水復活再生公園管理事業	所属部	総務企画部	所属課	企画財政課
-------	----------------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部 (SEE)

*原則は21年度の事後評価、ただし複数年度事業は21年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①21年度目標達成度評価 事務事業の前年度実績は前年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②22年度目標達成見込み 事務事業の本年度目標値に対して本年度の見込みはついているか？	☒ 目標達成見込みあり ⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】 江良地区については、補強工事の完了により通常の管理も実施しやすくなり、城地区も地元管理体制が整うことで目標達成の見込みがある。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 通常の維持管理を地元区で行い、大規模な補修等を市が実施することで管理していく事業であり、成果としての向上余地はない。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 将来に亘って安全に利用できる環境整備が前提となるが、他の公園とともに一元的に管理を行う方法が考えられる。公園として管理するには、利用者の安全確保と良好に維持管理できることが前提であり、そのための環境整備には莫大な費用を要するため、費用対効果の面から、現段階での統廃合はできない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 現時点で維持管理に対する経費は発生していないが、地元管理体制を強化するため、委託料等の必要が生じる。
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 最低限の維持管理(地元管理)状況の確認や相応の人的対応が必要であるが、地元管理の質向上により若干の削減の余地はある。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 市有地の適正な維持管理を市で行なうことは当然で、形態としては公園であり不特定多数の利用を可能としており、公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事務事業のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行出来ないか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 役割分担は適正である ⇒【理由】 将来、地域の憩いの場及び地域づくり活動の場として活用を検討し改善を図っていくことで、市の役割をさらに縮小できる余地がある。

3 評価結果の総括(SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

・江良地区については、崖地の補強工事の完了によって、より地元での管理がしやすく、より安全な公園として改善が図られた。
・城地区については、除草等の管理がなされず、景観が悪いのもっと市が指導して管理を徹底してほしいとの意見があり、地元区長との協議を行ない、次年度の管理体制について検討を行った。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善(有効性改善)
☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

基本的な管理のあり方として、日常の地元による管理を引き続き行うが、維持管理の質を向上するため、地元管理体制の強化を図る必要がある。

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			○
	維持			
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

H21年度で意見のあった城地区の管理徹底について、地元維持管理体制を整えるため、市が資金的な支援を行う必要がある。